

日韓戦戦評

日本 24 (13・14・11・15) 29 韓国

日本ボールで、2016日韓戦がスタート、日本は左サイドに日本代表初試合の小塩、左45信太、センター東江、右45高智、右サイド元木、ポスト加藤、の攻撃陣、GK甲斐でこの試合にのぞむ、韓国、日本共に6・0DFで試合はスタート。先制点は韓国NO7のセンターからの強烈なミドルを打ち込まれるも、

日本も次の攻撃でボールをサイドまで繋ぎ小塩が代表初ゴールですぐさま追いつく。日本は立ち上がりDFを固め、韓国の多彩な攻め、または1対1に対し有効な牽制で韓国のミス进行、元木が速攻で決める。韓国も同様に2次速攻から得点をとるが、日本はセットOFでも強烈なミドルシュートを高智が決め、

日本が先行する形で試合は進む。その後日本は、ノーマークシュートの場面を作るが韓国GKに阻まれ、そのボールを日本のDFが整う前に速攻を仕掛けられ連続得点を許し、開始10分には5・6の韓国リードとなる。日本も高智のミドルシュートで追いつくも、次の攻撃で高智が負傷退、場となるが、代わって入った山田が最初のシュートで強烈なミドルシュートを韓国ゴールに叩き込む。

これで、日本もリズムにのるかと思われたが、日本のシュートを韓国GKがことごとくセーブしお互いに試合の主導権争いとなる、その後、日本は銘苅の退場を機に韓国が連続得点を取り点差は3点差に、日本はここでメンバー変更をし、センター植垣、右45に元木をサイドからポジションチェンジし、右サイドに渡部、ポストに小室を投入し挽回を狙う、ここでも日本はDFで粘り韓国とミス速攻につなげ元木、成田の連続速攻、植垣のミドルシュートで同点に追いつく。後半のラスト日本は一瞬気を抜いた場面を韓国が見逃さず日本は2名が2分間退場、7MTを最後は決められ、13・14の韓国1点リード折り返す。

後半開始から4人でのDFとなった日本に対し、韓国が確実に得点を決め、守ってはGKの再三の好セーブから速攻を仕掛けられ後半10分には14・19の5点差となる。日本はここで流れを変えたく7人攻撃を仕掛け信太のミドルシュートを打ち込むも、一旦傾いた流れを変えることができず、ポスト、センターからのミドルシュートと連続得点を奪われ18・26と8点差がつく、日本も再び7人攻撃で攻め得点は奪うものの、日本は韓国の攻撃を止めることができず得点差が縮まらない、最後こそ日本は連続得点を奪うが追いつかず。

24・29で試合終了となる。

この試合、前半の最後のプレー、後半立ち上がり、韓国GKに勝負どころでことごとくノーマークシュートを阻止されたことが最後まで響いた試合内容だった。

【個人得点】

信太5点・元木4点・植垣、銘苅3点・高智、小塩、成田2点・加藤、山田、東江1点